

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和5年2月17日　第46号

三日・三か月・三年

　３年生が進路に向けてぐんぐん進んでいっています。私学入試が終わり、特別選抜の願書提出。卒業式の足音が聞こえてきていますが、一般入試がその少し前にあります。

　「進路だより」に書かれていますが、私学専願で合格を勝ち取った人は、周りをよく見てください。まだまだ戦いのさなかにある仲間がたくさんいます。今何をすべきなのか、人間性が問われている時間だと思います。

　さて、ある卒業生が突然訪ねてきてくれて、質問しました。就職が決まっていよいよ働きに出ようとした春先のこと。

　「先生、就職するにあたって気をつけることは」と。

　昔、恩師に諭してもらった話が浮かんできました。

　「三日・三か月・三年を大切に。働き始めて三日すると社会人としての感覚に慣れてくる。通勤や職場の雰囲気が体感できて少し落ち着いてきた自分を意識したらいい。

三か月たつと仕事の内容がわかってきて、今何をすべきが見えてくる。給料をどのように使っていくかを改めて見つめなおしたり、『働く』という意味を考えるといい。

三年たつと職場の人間関係の中に組み込まれて、今まで感じたことのない苦労を知る。自分が今後このなかでどのように社会に貢献できるかを見つめなおすこと。三日・三か月・三年の区切りを意識したら。」

　１２年生もキャリア教育という名目のもと職業について計画的に勉強していますが、働き始めてからも勉強は続きます。